FDガイド第22号

対面が最高の授業スタイル？いや、最高の遠隔授業をやればよいのでは

鹿児島大学 FD 委員会

【発行／2021年3月】

共通教育センター
教授　大前　慶和

1 1年生を教えるには特別な配慮が必要

私の主たる教育対象は1年生です。教育理念を単純に表現するならば、無理をさせ過ぎないこと、徐々に徐々に、です（ゼミなどでは逆だと思っています）。３点ほどの視点を大切にしてきました。

① 複数の先生の素晴らしい教育手法を、まずは真似ています。音楽の利用等による場の作り方、また広くファシリテーションスキルが１年生の教育に特に有効です。

② 学力の3要素のうち、「知識・技能の修得」はかつての教育がほぼ唯一の目標としてきたことから、今日の大学教育においては「思考力・判断力・表現力」および「主体性、多様性、協働性」の教育が相対的に重要性を増してきていると理解しています。１年生のうちにその基盤を確固たるものとする必要がありそうです（共通教育の使命だと考えています）。

③ educationの語源は「引き出すこと」だとある学会で聞いて以来、押しつけるのではなく、引き出すことを大切にしてきました。

2 1年生対象の対面授業で実践している工夫

① 場づくりに音楽を利用しています。静まりかえったカフェを想像すれば、環境整備の必要性が実感できます。

② グループワークをする前にチェックインという作業を用意しています。ファシリテーションスキルの1つで、通常はチェックアウトと共に用います。グループメンバーの相互理解・配慮を引き出すことが目的です。さらに、オープンな場を作るためにお題を教員が用意し、雑談が進むようにしています。

図１ チェックイン・シート

③ 発言のための準備時間を確保しています。たかがチェックインでも、緊張する学生が多くいることを直視して下さい。自己紹介でも同様です。文字を書くことにより発言内容が準備でき、また心を落ち着かせる時間ともなります。よって、チェックインの際にも図１のようなシートを用意するようにしています。

④ グループワークを組み込む際には、短時間で区切られた作業ステップを積み上げる形で事前にデザインしています。作業ステップ毎に原則として1つの作業を指示します。例えば、「＊＊＊のテーマに関係するキーワードをたくさん書きだしてください（2分）」、「この後、1分間で自身の意見を発表してもらうので、キーワードを参考に発表内容を文字でまとめて下さい（2分）」、「各人の意見を1分ずつで発表して下さい」のように。発言が苦手だという学生でも、ゲーム感覚でディスカッションに参加できるようになります。

⑤ 発表内容に対するポジティブ・フィードバックを心掛けています。ただし、間違いを放置するわけではありません。間違いを指摘したあとにポジティブ・フィードバックを追加するのがコツです。

⑥ 講義形式の授業であっても、受講生に考える機会を与えるように配慮しています。「＊＊＊の場合、みんななならどうする？」、「AとB、どっちが正しいと思う？」と問いかけながら、授業を進めています。

⑦ できる限り発言のハードルを低くするためには、上に立つ者が率先して下に降りていくべきだと思います。雑談しているかのような口調で授業を進めるだけでも、学生は発言しやすくなるものです。実は服装も関係している可能性を感じます。

⑧ 授業形式の授業の最後には、5分ほどのペアワークを用意しています。チェックインを行った後、相互に授業内容を確認し、質問があれば相手から教えてもらう、それでも不明点は教員に質問するという単純なスタイルです。意外にも、チェックインを含めたこの取り組みが毎年好評価を得ています。

3 対面授業が最高だとの先入観を捨て、最高の遠隔授業実現を試行錯誤

自身の対面授業は、学生から高評価を得られていました。それゆえ遠隔授業化が決まった当初は「これまでの対面授業をいかにして遠隔スタイルで実現させるか」を考えていました。実は、これが間違いだったように思います。

対面授業が最高のスタイルだとの先入観を捨てれば、むしろ遠隔授業だからこそできることも多くあることに気づけるのではないでしょうか。対面も遠隔も、大差ないことだって多い気がします。本年度は最高の遠隔授業を実現させる努力をすればいいんだと思考の方向性を変え、試行錯誤の結果、現在では以下のように遠隔授業を準備・実施しています。

なお、私の授業には双方向コミュニケーションが必要ですので、Zoomライブ授業が基本です。オンデマンド動画のみによる授業を成功させることは自身のスキルでは不可能だと割り切りました。

対面が最高の授業スタイル？　いや、最高の遠隔授業をやればよいのでは

① 遠隔授業に適した環境を整備しました。1台のノートPCで授業を実施するのは無理がありました。パワーポイントを利用する場合は4枚のディスプレイがあると便利だと感じました（あくまで一例です）。

【１枚目】発表者ツールを表示させる。

【２枚目】Zoomでデスクトップを共有した上で、スライドショーを表示させる。タブレット等で代替すれば、共有画面上で書き込み等が容易にできる利点もある？　※自身はタブレットを所有していないため、大いに推測です。

【３枚目】Zoomの参加者ウィンドウ、チャットウィンドウ、ブレイクアウトルームウィンドウ等を常に表示させる。ブレイクアウトルームへの指示も、事前にテキストファイルで用意し表示させておく（コピー＆ペーストで指示を出すため）。

【４枚目】manabaの確認、音楽のコントロールに用いる。また、授業で利用したいwebページや動画を用意しておき、必要時に２枚目のディスプレイに表示することにより、参加者と共有可能（共有画面の切り替えは不要）。

② 双方向コミュニケーションを授業に多く組み込む努力をしました。遠隔授業では臨機応変に授業内容を変えることが困難ですので、80分程度の番組を作り込むイメージで授業準備をしています。当初は Zoom の投票機能をクリッカーとして利用していましたが、投票を事前に定義することが煩雑であったため、Zoomアップデートによって実装された「チェックマーク」や「バツマーク」等を現在では活用しています。「Ａだと思う人はチェック、Ｂだと思う人はバツ、Ｃだと思う人は左を入れて」といった具合です。

なお、チャットの利用は、離席や音声トラブルの報告程度です。時々質問を書き込んでくれる学生もいます。

【注】Zoom はアップデートにより機能がどんどん変化していく傾向があると感じます。本稿執筆時点では、チェックマーク等が「リアクション」ボタンに組み込まれ、入力後一定時間で自動消滅するように変更されてしまいました。

③ オンラインで共有しているスライドに、文字をできる限り多く用いました。対面授業でパワーポイントを使う場合、授業の流れを作るために自身の台詞をスライド化することがあります。「ここで話を変えます」、「ところが、問題はこの後に生じたのです」等。遠隔授業では、より極端に実践しています。

人は情報の90％を目から得ているといわれているように、学生はスライドに書かれている情報や価値に集中しがちです。また、Zoomライブ授業では、音声トラブルを完全に回避することができません。そこで、解説内容、授業の流れ、雑談的話題、最後のまとめ、次週の指示等をできる限り文字化し、目で確かめられるようにしました。音声トラブルに遭遇した学生からは、「スライドだけでも授業内容がつかめた」とのコメントをもらっています。

④ 対面授業以上に写真等を利用するようにしました。動画も有効でしょう。遠隔授業で受講生が睡魔に襲われないよう、チェックマークを入れる等の参加機会を用意するだけではなく、映画を見ているかのような面白さも必要だと考えたためです。

⑤ ブレイクアウトルームを活用し、グループワークや授業内容確認ペアワークを実施しています。見回りは行っていません。チェックイン時のお題と、細かく区切られた作業ステップを事前に丁寧に説明し、受講生がブレイクアウトルームに移動した後は各ステップ・作業の開始・終了の指示を文字でするのみです（ブレイクアウトルームにメインルームの声は届かないため）。この手法が万能だとは思いませんが、フリーライドの余地がなく、少なくとも自身の科目では活発なグループワークが実現できているようです（アンケートで指摘されます）。

⑥ 特に教養科目では「暗記は一切不要」と伝えるようにしました。細かな知識を蓄積するのは、Zoomライブ授業が苦手とする領域だと感じたからです。よって、暗記を問うような試験も実施せず、受講生自身の考えをまとめるような最終レポートを課すようにしました。ただし、採点時の苦労は格段に増えています。

⑦ 毎回授業後に課すレポートを最終ゴールに結びつけるよう、配慮しました。しかも、教育は押しつけることではなく引き出すことですから、適切な量となるようにしました。

例えば、「初年次セミナーⅠ」では、論証型レポートを提出することが最終ゴールでしたから、毎回授業後のレポートは常に最終レポートに関わるよう、受講生の書きためてきたレポートを修正させたり、新たに参考文献一覧を作らせたりしました。

また、教養科目である「現代企業経営論」では、第１回授業時に最終レポートのテーマを開示し、ゴールを意識しながら毎回の授業を受けるよう、指導しました。自身の考えを毎回授業でまとめさせるのは理にかなってないため、キーワードのみ蓄積するレポートにしてみました。〆切は授業日当日に設定しています。キーワードレポートは5～10分程度を想定していると伝えたものの、大半のレポートは力の入った内容となっていて驚かされます。授業中のメモ、キーワードレポートを参考に、毎週2～3時間かけて自分だけの経営学ノートを作ることを授業時間外学習の課題としています。

4 自身も1年生なのだ、と割り切ったのが奏効か？

遠隔授業を実施するなど予想だにしておらず、まずはZoomを体験的に理解し、できそうなことをやってみた感じです。可能な限り最高の遠隔授業にしようとは決めたものの、それは完璧な遠隔授業の実現とは異なっていることに注意してください。受講生とは互いに１年生だと語り合い、遠隔授業改善のヒントを受講生に求めるよう心掛けました。授業アンケート等で高評価が返ってきているのは、この姿勢が受け入れられたに過ぎないと思います。

最後に、本稿を読み返しても明らかなのですが、遠隔授業特有のスキルは決して多くないと感じます。同時に、対面授業のやり方に固執することもまた、遠隔授業を窮屈にしてしまいます。遠隔授業に変わったからといって、教育の本質が変わるわけではなく、ただ遠隔授業への慣れが必要だったのではないでしょうか。本年度に様々に開発され、また実績をあげた遠隔授業スキルを共有すれば、遠隔授業に利用できるのはもちろん、おそらく対面授業にも好影響が及ぶと確信しています。